

根室の小・中入学者の推移

(単位:人)	小学校	中学校
2015年度	206	210
2016年度	180	206
2017年度	159	213
2018年度	169	205
2019年度	163	204
2020年度	188	199
2021年度	167	183
2022年度	170	160
2023年度	143	144
2024年度	116	154

(左表)市教育委員会の資料によると市内小学校の入学者数は10年前より90名減少しています。2025年度は未定ですが前年と同水準が見込まれています。

2024年 市内の出生数100人を下回る 外国人技能実習生等の転入増が市人口を支える

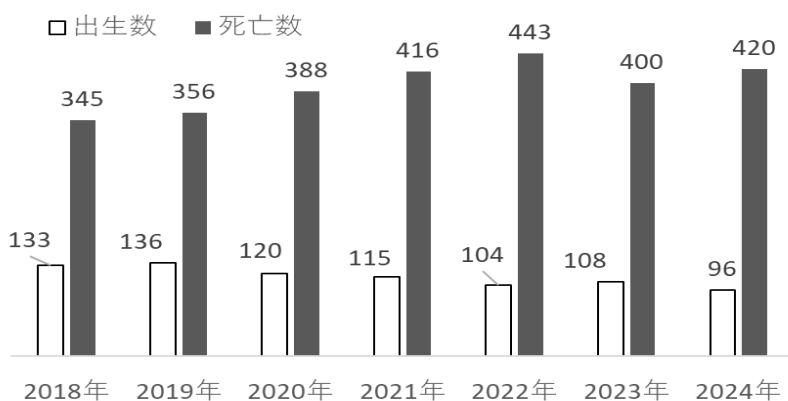
根室市市民課の統計によると、昨年1月～12月までの根室市民等の出生数は96名と100人を下回りました。死亡者数は420名。一方でコロナ後も外国人技能実習生など外国籍の方の転入が増えており、根室の人口減少の抑制に重要な役割を果たしていることが伺えます。

2023年の時は少し歯止めがかかったように見えたが、やはり出生数は過去最少を更新し、また死亡者数も増加し続けています。12月末で根室市の人口は2万2468人。社人研の推計では10年後、2035年は1万8046人に減少することが見込まれています。

市内でも商店などの閉店が相次いでいます。一般論ですが、人口減少が進むとスーパーなど小売業、医療・福祉をはじめ生活関連サービスの維持が難しくなり、生活必需品やサービスを地域内で得るのがさらに厳しくなる可能性があります。

近年は転出超過による人口の社会減より出生数を死亡数が上回る自然減の方が多くなっています。社会減の抑制は技能実習生など外国籍の方々の存在が大きいと思います。2024年も転入339人、転出176人と155人の増加。12月末で717人(人口の3.2%)となっており、地域産業の担い手だけでなく、地元の経済活動としても大切な存在になっているのだとあらためて実感しました。

根室市内の出生数と死亡数の推移 1月～12月 (根室市の統計から 単位:人)



宝林町パークゴルフ場の「新管理棟」が完成

宝林町の根室市パークゴルフ場の管理棟は老朽化のため行われていた建て替え工事が、昨年12月に完成しました。

事務室と待合・休憩スペースが一体となり、室内は木材が多用され、混雑緩和のため廊下・導線スペースも含めて、これまでより広い環境となりました。

室内は真夏の熱中症対策にルームエアコンが整備され、多目的トイレも設置されました。また男女トイレは室内からだけでなく、野外からも行き来できるようになっており、利便性が高くなっています。出入口には靴の草等を払うためのエアコンプレッサーもあります。

テーブルなどの物品は利用者側の意見を聞きながら、新年度以降の予算で整備を図っていくそうです。



木のぬくもりが感じられる「管理棟」室内の様子

海面養殖トラウトサーモン 陸上養殖サクラマス試食会



根室市ベニザケ養殖協議会(市と市内4漁協で構成)が花咲港で海面養殖したトラウトサーモンと根室振興局からの委託で市水産研究所が飼育(陸上養殖)したサクラマス。昨年12月24日、市職員や根室振興局など関係者が参加する試食会が開催されました。

トラウトサーモンは昨年6月、花咲港に設置した1ヶ所に稚魚2500匹が放流されました。その前の年の試験では高温でほぼ全滅しましたが、今回は生存率が高く、秋には平均2.4kg前後に成長して出荷することができたそうです。

サクラマスは2022年から水産研究所の水槽で飼育され、平均1.9kgに育って収穫されました。試食に提供された刺身はトラウトは橙色、サクラマスは薄紅色に見えます。エサは同じらしいですが色味も食感も全然違うことに驚きました。試食した参加者からは「美味しい」などの声が聞かれました。またトラウトは海面養殖でも与えられた配合飼料の方を好んで食べているらしく、今回の試食用に捌いた魚にもアニサキス等は全く見つかっていない、との説明でした。

今回のトラウトサーモンは夏場の高温に耐えるため平均1kgまで大きく成長させた稚魚を放流しました。その分、稚魚のコストが高くなり、販売価格と同じくらい飼育経費が掛かったそうです。試験段階とは言え、人件費分を考えると実質的に赤字です。海面養殖試験を主導する市水産研究所は今後、コストを抑えるためにまだ小さな稚魚を放流して大きく育てることや、そのため夏の高温の対策をどうするかなど、引き続き様々な観点から検証するとしています。